

## にきびの治療薬は清上防風湯などで

**Q** 二十二歳、女性。就職も決まり社会人として希望に燃えています。が、悩みの種は中学時代からの「にきび」です。漢方では内臓を整えて、にきびを根本的に治すと友人に聞きましたが本当ですか。

**A** 質問者の年代のにきびは「花も盛り」と自然に任せたい気もするが、同様の悩みで私どもの研究所に来院する若い男女が近年増えている。漢方では「皮膚は内臓の鏡」という考えがある。過労や体調が悪いと化粧ののりが悪かったり、肌荒れを感じたりするように、内臓の働きと皮膚の働きは密接に関連している。だから胃腸の働きや血行を整えてにきびを治そうとするのは理にかなっている。

にきびの治療薬は局所の状態と全身状態を勘案して決める。顔が脂ぎっていて、にきびも赤く化膿ぎみなら清上防風湯（せいじょうぼうふうとう）がよい。月経周期に伴い増悪する女性では、のぼせタイプには桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん）、冷え性には当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）が向く。

口周を中心にあごにかけて出るときは、消化器機能と関連することが多い。この場合は半夏瀉心湯（はんげしゃしんとう）が効く。併せてスナック菓子などの偏食がないよう指導している。便秘や下痢を繰り返す人は胃腸の働きを整える漢方薬を飲むと、肌のつやが良くなる。どの症状にもハトムギの種子である薏苡仁（よくいにん）を入れることが多い。